

総合的な学習の時間 (チャレンジ学習) 部会

司会者 元島 由香利 (旭川市立陵雲小学校教諭)
助言者 竹中 一三 (旭川市教育委員会指導主事)
助言者 玉井 一行 (旭川市富沢小学校校長)

I 授業の部会から ※主なものを抜粋

思考ツールについて

○コア・マトリックスは、自分に必要な情報を選んで、要点を書き込むことができるので、整理・分析の場面での活用は効果的だった。ただし、本時では、関連付ける手立てとして使っていたので、児童がコア・マトリックスに書いた情報の中で、関連した情報を線でつなげながら、食べることの大切さを考えられるとよかった。

○コア・マトリックスを総合的な学習の時間の授業以外でも活用しているか。
→活用している。これまでの授業では、国語の考えを交流する場面で使った。総合的な学習の授業だけで児童が思考ツールを使いこなせるようになるのは難しいので、今後も他教科での活用の仕方を研究していく。



単元構成について

○本時の授業の中で児童から出された情報は、3年生の発達段階を考えると難しかったので、2時間構成でもよかった。そうすれば、出てきた情報を児童がじっくりと分析し、自分の考えを深めることができた。

本時の流れについて

○本時の目標は「食べることの重要性についての理解を深める」だった。この目標は、3年生にはレベルが高いと感じた。授業を参観していて、本時の目標を達成できていない児童がいた。その理由は学習内容が児童の実態に合っていないからだと感じた。

○児童の考えが板書に分かりやすく整理されていたので、その板書に書かれた情報を手掛かりとして、児童は食べることの大切さについて考えを深めることができていた。

○教師の問い返しは、児童が情報を整理したり、考えを深めたりするのに有効だったが、教師と児童の対話になっていたので、今後は児童同士が質問し合えるようになるとうい。

○もし自分がE (酪農家について調べた児童) だったとしたら、どこの情報が欲しいかという必要感をもって参加する。そう考えると、本時は関係がない情報を処理していく時間が長かった。児童が必要な情報だけを収集しに行くことができれば、授業者が本時でねらっていた関連付ける授業へと更に近けたと感じた。

○今日の授業でD (農家) → E (酪農家) → C (調理員) → B (健康, 成長) → A (環境) の順に発表させた意図は。

→全ての情報に共通している視点は命だった。その視点を関連させ、概念を形成するには、今日の授業の順番で交流した方がよいと考えたから。

Ⅱ 助言者からの講評 ※要点のみ

(1) 竹中 一三 指導主事から

【本時の流れについて】

多くの児童が収集した情報を多様な角度から俯瞰して捉えるために「考えるための技法（関連付ける）」と、その技法を可視化する「思考ツール（コア・マトリックス）」を活用することができていた。本時のような「考えるための技法」や「思考ツール」を明確にした授業を探究のサイクルの中に位置付けることによって、児童に知識を相互に関連付けたり組み合わせたりする力が着実に育まれると考える。



【振り返りについて】

振り返りの視点を与えることによって、どのような知識・技能を身に付けたのか、それを基にどのようなことを考えたのかを児童に理解させることができる。振り返りの重要性については理解されてきているが、多くの授業では、視点を与えずに振り返らせることが多いので、今回の実践をみなさんの授業にも取り入れるとよい。

(2) 玉井 一行 校長先生から

【探究課題について】

総合的な学習の時間では、「何を学ぶのか」とそれを通して「どのようなことができるようになるのか」ということを各学校が具体的に設定しなければならない。

今回の単元は、児童にとって身近な「食」を探究課題とし「残食を減らす」ことを目的としていた。この課題と目的は、3年生の児童が実社会や実生活の中から問いを見いだすことができるものとなっていた。今後も附属旭川小学校では、児童の実態に応じた「目標を実現するのにふさわしい探究課題」を設定し、単元を進めてもらいたい。



【見通しについて】

総合的な学習の時間の授業では、課題設定をした後すぐに、児童に情報を収集させてはいけない。なぜなら、学習計画を明確にしておかなければ、必要な情報を収集することが難しいからである。特に3年生は、どのように学習を進めるのかをみんなで確認することが大事である。

見通しには2種類ある。1つめは、解決に向けて進めていくプロセスイメージを明らかにすること。2つめは、学習活動のゴールイメージを鮮明に描くことである。今日の授業では、1時間の見通しを児童にもたせることができていた。また「残食を減らす」というゴールイメージを全員がもって「食べることの大切さ」について考えられていた。この2種類の見通しを児童がもっていたことが、本時の前のめりになって授業に臨む姿につながったと思う。

総合的な学習の時間とは探究学習であり、探究するためには個の課題の設定が不可欠である。次年度は、児童が個の課題を自分で設定したり、どのような学び方をすれば個の課題を解決させられるのかを、一人一人が考えられるようになっていたりするとよい。そうすれば、総合的な学習の時間が更に主体的な学びとなり、その結果、今年度以上の深い学びが実現すると考える。